

## 会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日時	令和3年10月26日（火） 9：50～12:30
場所	沖縄県立図書館6階研修室
出席委員名	山口真也委員（会長）、榮野川敦委員（副会長）、辻上弘子委員、カーマシュー委員、新垣吉宗委員、中島徹也委員、川満奈美絵委員、宮里寿子委員、呉屋美奈子委員（9名）
議題及び報告事項	会長・副会長の選任 報告事項1 沖縄県立図書館の概要及び運営状況等について 協議事項1 沖縄県立図書館評価指標に基づく図書館評価（令和2年度対象）について 協議事項2 令和3年度対象図書館評価における利用者満足度調査について
会議の概要	委嘱状交付式終了後、委員自己紹介、会長・副会長の選任を行い、委員互選により、会長に山口委員、副会長に榮野川委員が選任された。 その後、報告事項、協議事項について、質疑応答及び協議を行った。 委員からの質疑及び協議結果等については別紙のとおり。
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	沖縄県立図書館
問い合わせ先	総務班 担当 玉那覇・小池 電話 098-894-5858
備考	

## 会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日時	令和3年10月26日（火） 9：50～12:30
場所	沖縄県立図書館 6階研修室
<p>会議の概要 (委員からの質疑等)</p>	<p><b>報告事項 1 沖縄県立図書館の概要及び運営状況等について</b></p> <p>○非来館型サービスのうち資料複写について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館時に郷土資料の郵送複写サービスを行っていることを知らなかった。有用なサービスだと思うので、市町村立図書館等にもアナウンスを行って欲しい。 〈回答〉今後、広報の充実に努めたい。</p> <p>○コロナ禍の中で広域サービスがすごく充実していると感じる。子どもの居場所づくりに取り組む団体や、放課後児童クラブへのサービスも拡大していることがありがたい。</p> <p>○県立図書館の「全県に」という役割を考えると、コロナ休館中に限らず、ひ～じゃ～便（資料宅配サービス）を通常サービスとしたことは良かったと思う。</p> <p>○電子書籍サービスは、利用しており、便利なサービスだと思う。</p> <p>○電子書籍を市町村と共有できると、ますますいいと思う。</p> <p><b>協議事項 1 沖縄県立図書館評価指標に基づく図書館評価（令和2年度対象）について</b></p> <p>○デジタル郷土資料の解説点数は、今後、増えては、いけないようなものなのか。 〈回答〉解説を付けないといけないデジタル資料は多数あるが、たくさんの処理はできなく、できるものから解説を付している状況である。</p> <p>○資料の修復について、現在、どれぐらい外部に出さないといけないものがあるのか。また、同じ県の施設なので、公文書館の修復室を貸してもらおうといったことはできないか。 〈回答〉修復が必要な資料については大量にあり、数年に1度、保存資料の中から、資料の劣化度を確認し、その中で、強劣化で優先度の高いものから、予算の範囲内で修復に出している状況である。 貸出や閲覧用の資料で洋装のものについては、現在、ボランティアの方にも修理してもらっているところだが、公文書館とも情報交換を行いたい。</p> <p>○資料の修復の際は、同時にデジタル化も進めているのか。 〈回答〉外部への修復依頼資料については、修復の際にデジタルデータも作成している。</p> <p>○コロナ禍に伴う実績値の低下は、不可抗力によるものなので、そのまま評価値を算定することに違和感がある。</p> <p>○入館者数、貸出冊数等、どうしても絶対値で見ると評価が低くなるので、開館日数で割った数値等についてもわかるようにして欲しい。</p> <p>○当初定めた評価方法により、評価する為、「1」等の低評価になることは止むを得ないと考える。一方、新たな非来館型サービスの実施や琉球・沖縄関係資料の充実等、コロナ禍で進んだ取組等も見られる為、外部評価の際は、そうした取組についての評価を記載する他、コロナウイルスの影響を受けてそうした数値になっていること等を記載して欲しい。</p>

<p>附属機関等の名称</p>	<p>沖縄県立図書館協議会</p>
<p>日時</p>	<p>令和3年10月26日（火） 9：50～12:30</p>
<p>場所</p>	<p>沖縄県立図書館6階研修室</p>
<p>会議の概要 (委員からの質疑等)</p>	<p>【協議結果等】 各委員の意見を踏まえ、会長と事務局が調整の上、外部評価コメントを作成することが確認された。</p> <p><b>協議事項2 令和3年度対象図書館評価における利用者満足度調査について</b></p> <p>○新たな評価の手法等について、現評価と比較して良くなっていると思う。 一方、満足度について、来館者の満足度を測定することになっているが、市町村等を通じて県立図書館に行ったことがない方等の意見も聴取した方が良いと思う。 また、聴取した意見を参考に事業化や予算化につなげてほしい。 〈対応〉アンケートについて、来館できない、または潜在的に来館できる方に対象を広げたものの実施を検討する。</p> <p>○アンケート調査の手法について、紙媒体だけでなく、Webサービスの活用も検討してほしい。</p> <p>○調査期間が2週間で来館時に回収ということになると十分な数の回答が集まるか不安があるので、その観点からもWeb上で行うことは良いと思う。「なぜ来館しないのか」といったことについても聞ければ課題解決につながるのでは。 〈対応〉Webサービスの活用及び対象の拡大を検討する。</p> <p>○実施要領案第2条の見出しが（満足度の測定方法）となっているが、内容に照らすと（満足度の定義）とした方がわかりやすいと思う。 また、集計時の参考とする為の聴取項目として「性別」が記載されているが、利用登録の際に性別情報を収集していないこと等を考慮すると、要領からは削除した方が良い。</p> <p>○レファレンスの満足度については、期間を区切らずに毎回のサービス毎に確認できた方が良い。 〈回答〉電子的な調査手法により、集計の手間が、かからないようであれば通年で実施することを検討したい。</p>